

魅力あるディーラーへ

(一社)日本自動車販売協会連合会会長
小関 眞一氏



赤字は絶対ダメ！誰も助けてくれない！走りながら考える！。一私の父である山形日産自動車(株)会長小関善久が常々口にしていた言葉です。昭和一桁世代、90歳となった今も私どもを叱咤激励

しております。求心力と泥臭い仕事ぶりが人を惹きつける魅力ある父であり、経営者としての心構えを私は学びました。

父は昭和3年、山形市宮町の米屋の6人兄弟の長男に生まれました。昭和21年1月10日に、山形県自動車整備配給(株)に入って以来、日産ひと筋の人生です。艱難辛苦して会社を育て上げた歩みを記す自伝を昨年2月に一冊にまとめました。タイトルは、その名もズバリ「自伝クルマ売り一代記」です。戦時中の勤労動員、昭和36年山形日産を設立したこと、販売体制を確立し、系列ディーラーを統合し山形日産グループを創り上げてきたことなど、70有余年にわたる歴史を、さまざまなエピソードを交えて振り返っています。

不屈を絵に描いたような父と、社員の努力、何よりもユーザー、県内外の自動車販売に携わる多

くの方々の後押しをいただき、(一社)日本自動車販売協会連合会(自販連)の会長に就任し、規模も地域事情も異なる全国の約1,500社のディーラーを束ねていく重責を担うこととなりました。あらためて身の引き締まる思いです。

当面の課題は自動車税制問題への対応です。来年10月の消費税率引き上げを視野に入れて、車体課税の負担軽減や簡素化を、業界一丸となって取り組みます。併せて、ディーラースタッフの社会的地位の向上や、誇りを持って働ける環境整備、人材確保や教育・研修に力を注ぎたいと思っています。

同時に地方と中央の格差是正を訴えていきたいと考えています。山形県は世帯ごとの自動車保有台数は全国トップクラスです。その分、自動車にかかわる税を、中央より多く負担していますが、それに見合った道路インフラ整備は大きく遅れています。

自動車が生まれて100年。業界は「大転換期」に直面しております。電気自動車(EV)、ハイブリッド車(HV)、プラグインハイブリッド車(PHV)の急速な普及と、水素を用いる燃料電池車(FCV)の登場。並行して安全運転や自動運転支援機能など技術革新が進んでおります。自動車産業は裾野が広く、本県のモノづくり産業の多くが関わっています。車が売れることによってさまざまな業界に経済波及効果があります。ユーザーと直接向き合う私たちの役割は、これまで以上に大きなものとなっております。

幼い頃、サファリ・ラリーで優勝したブルーバードSSSが、石原裕次郎主演の映画「栄光への5000*」を上映していたシネマ旭に飾っていたのを鮮明に覚えています。「わいわいガチャガチャ もっと明るくカッコよく!」。これまで以上に現場主義に徹して、魅力ある業界、豊かなカーライフを提供していきたいと思っています。

(山形日産自動車(株)代表取締役社長)



今月の表紙

「国指定重要文化財・教育資料館(山形市緑町)」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・(株)大風印刷)提供。